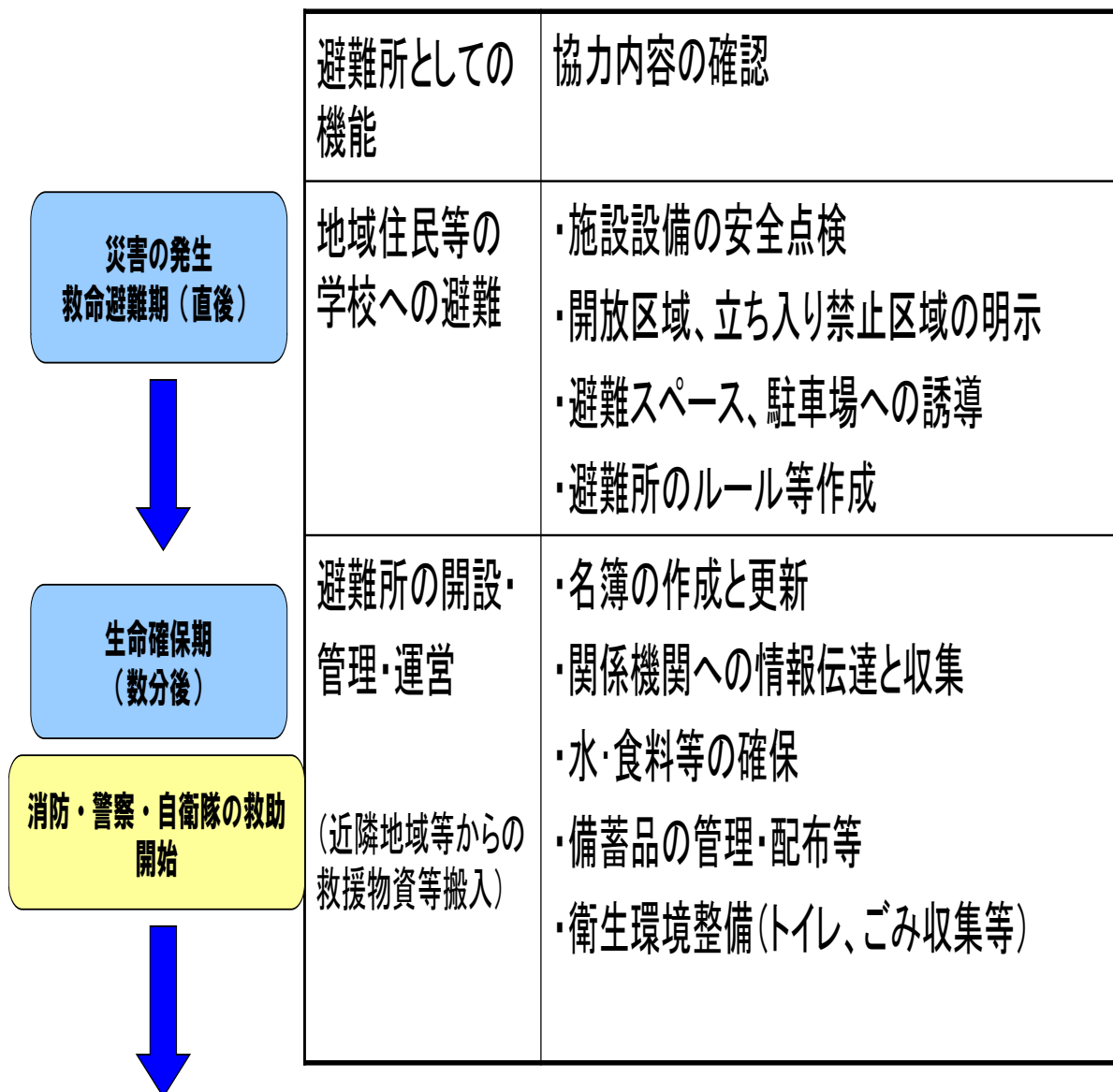


避難所協力①

(発災から自主防災組織移行まで)

- 1 避難所支援班を中心に教職員の役割分担を確認後、地域の代表者等と協議、連携
- 2 本部の場所決定
- 3 生徒への支援を優先



避難所協力②

(発災から自主防災組織移行まで)

	避難所としての機能	協力内容の確認
生命確保期 (数分後～)	避難所の開設・ 管理・運営	・配給時のトラブル防止策 ・食料・医療物資の配給協力 ・情報連絡・収集活動の協力 ・避難者用の緊急電話の設置
↓		
生命確保期 (数日後～)	自主防災組織 の立ち上がり～ 確立	・自主防災組織作りに協力 ・ボランティア等との調整 (町災害対策本部との連携) ・要援護者への協力等
↓		
学校機能再開期 (数週間後～)	避難所機能と学 校機能の同居	・自治組織への側面的支援
	避難所機能の 解消と学校機能 正常化	・学校機能再開、避難所閉鎖のための準備 ・情報収集

(4) 危機発生時における健康観察表 (例)

(年 組 氏名)

危機発生時の健康観察表

〈例〉

番号	調査項目	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
1	食欲がない						
2	眠れないことがある						
3	おなかが痛いことがある						
4	吐き気がすることがある						
5	下痢をしている						
6	皮膚がかゆい						
7	目がかゆい						
8	頭が痛いことがある						
9	尿の回数が増えた						
10	食べ過ぎることがよくある						
11	なんとなく落ち着かない						
12	悩んでいることや困っていることがある						
13	何となくからだがだるい						
14	イライラして攻撃的になる						
15	急にふさぎ込んでしまう						
16	ボーッとしている						
17	いつもと様子が違う（元気がない、元気が良すぎる等）						
18	保健室の利用が増えた						
19							
20							

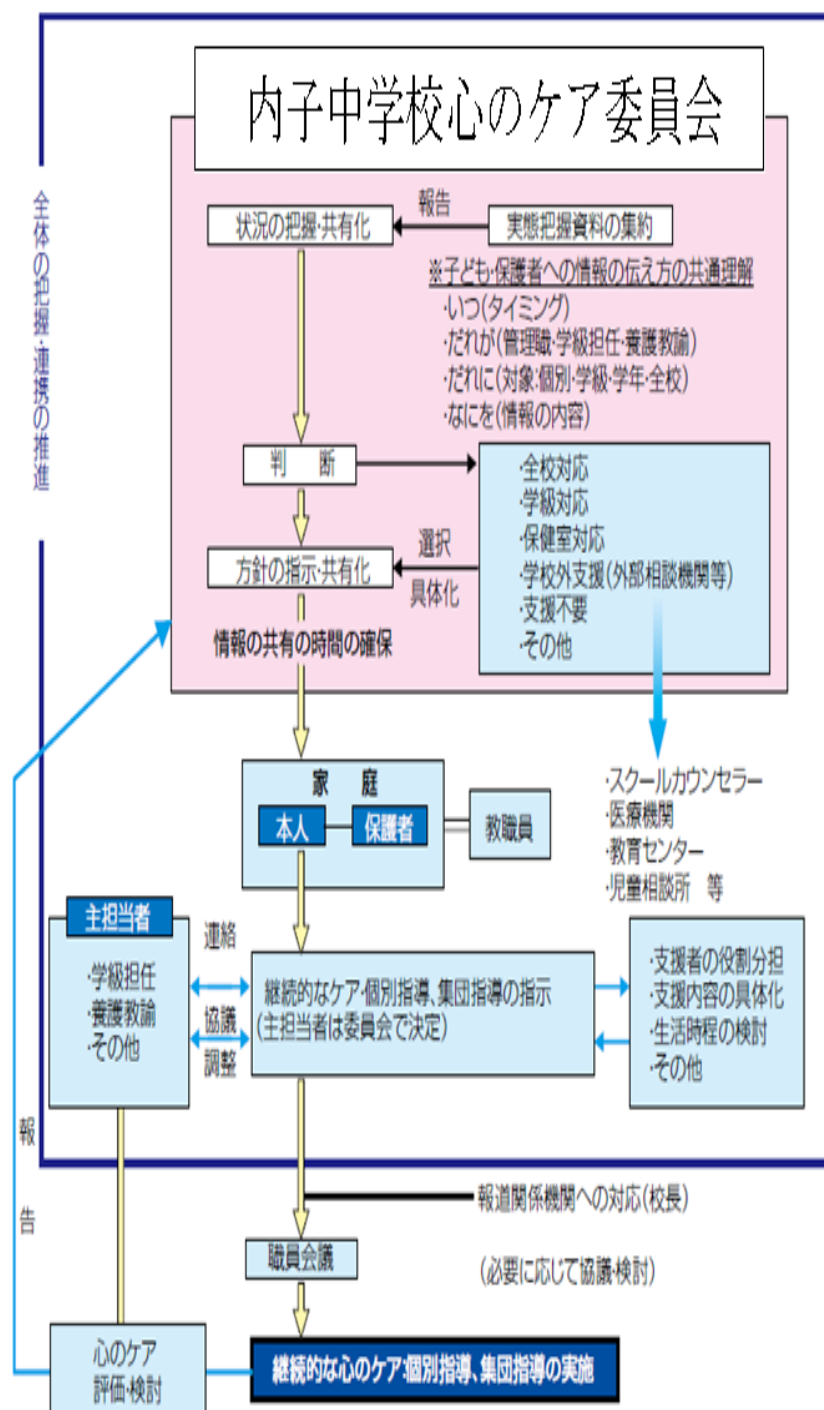
メモ

実施方法

- (1) 該当する項目や内容があれば「○」を記入する。
- (2) 結果については、養護教諭に提示する。養護教諭は全校的な傾向や個別の情報について管理職に報告の上、対応について検討する。
- (3) ほかに必要な項目があれば随時追加する。

* 平常時に使用している健康観察表と併せて活用する。

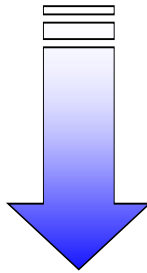
心のケアに関する危機管理マニュアル



原子力災害の対応 1

1 正確な情報提供等

➤ 万一、原子力緊急事態が発生した場合には、国、県、町のテレビ、ラジオ等による緊急放送等により情報を収集する。 ➤ 災害対策本部と綿密に連絡を取ることが不可欠である。 ➤ 事前に都道府県や市町の対応内容、児童生徒等のとるべき行動などについて把握しておく。	✓一斉放送 ✓テレビ ✓ラジオ ✓広報車 ✓インターネット等
---	--



原子力災害の対応 2

2 適切な退避と避難

屋内退避	➤屋内に退避することは、屋根や壁などで放射線を遮ることになるので、外部被ばくを低減させる効果がある。 ➤また、屋内の気密性を高めることで放射性物質の浸入を抑え、内部被ばくを抑えることもできる。 ➤屋内退避は、避難に比べて日常生活に近く、テレビ・ラジオからの報道に接することができるため、予測被ばく線量が小さいときに有効であると考えられる。	生徒への指示 ✓ドアや窓を全部閉める。 ✓換気扇などを止める。 ✓外から帰ってきた人は顔や手を洗う。 ✓防災行政無線、広報車、テレビ・ラジオなどの正しい情報を得る。 ✓食器にフタをしたりラップをかける。
コンクリート屋内退避	➤コンクリート建物は、木造家屋よりも放射線の遮へい効果が大きく、一般的に気密性も高いので、内部・外部被ばくの防護効果が高いと考えられている。 ➤個人住宅の屋内退避では、被ばくの低減効果が小さい場合があり、コンクリート建屋への退避指示が行われる場合がある。	木造より防護効果がある。
避難	➤避難は、環境へ放出された放射性物質から遠く離れ、放射線による外部被ばく及び内部被ばくを防ぐための手段である。 ➤避難に当たっては、県や市町の指示に従う。	避難する上での注意事項 ✓集合場所へは徒歩で、持ち物は最小限にする。 ✓ガス・電気の消火消灯する。 ✓戸締りをしっかりする。
		留意事項 ✓隣近所にも知らせる。 ✓持病のある児童生徒等は常備薬を忘れずに持参する。

弾道ミサイル攻撃を受けた場合の 対応・避難

弾道ミサイル落下時における避難の必要性について

- 弾道ミサイルは極めて短時間で我が国に着弾することが予想されるため、避難行動の時間が限られることから、速やかに以下のような状況に応じた避難行動を取る必要があります。

【屋外にいる場合】

ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、近くの建物の中か地下に避難する。

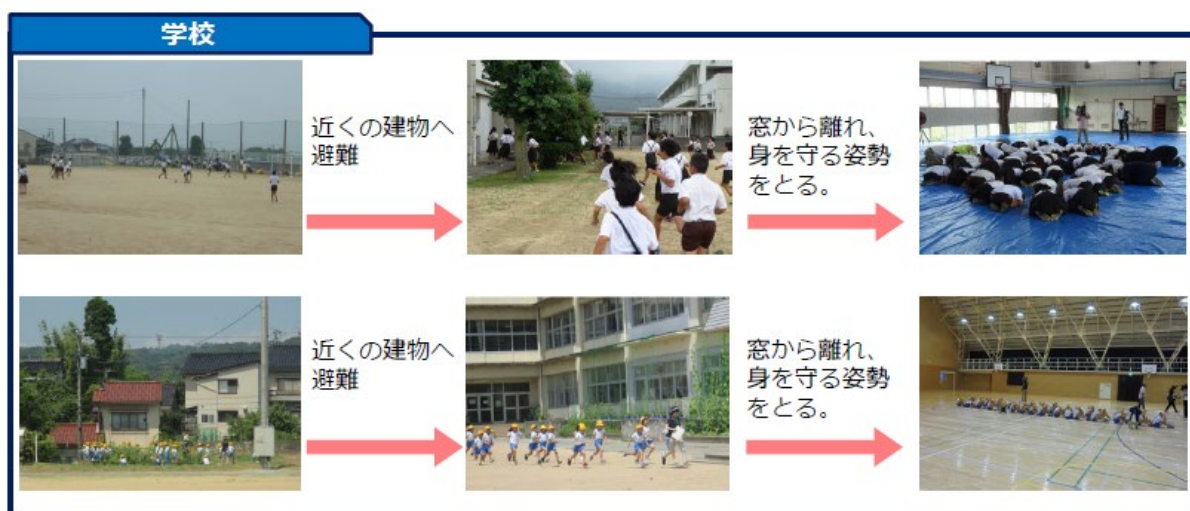
【建物がない場合】

ミサイル着弾時の爆風や破片などによる被害を避けるため、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

【屋内にいる場合】

爆風で壊れた窓ガラスなどで被害を受けないよう、できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

屋外にいる場合（近くに建物があるとき）



屋外にいる場合（近くに建物がないとき）

田園地帯



身を隠す場所を探す。



農業用水やコンクリート製の橋の下などに身を隠す。



自動車運転中



速やかに安全な場所に停車し、車から離れる。近くに建物がないため、その場で伏せて、頭部を守る。



電車乗車中



窓から離れた中央に移動し、姿勢を低くして、身を守る姿勢をとる。



屋外にいる場合（近くに建物がないとき）

その他



その場で伏せて、頭部を守る。



塀に身を寄せて、頭部を守る。



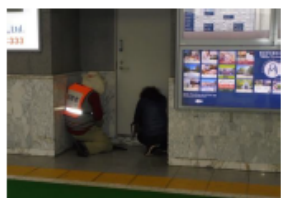
コンクリートに身を寄せて、頭部を守る。



遊具の中に身を隠す。



ベンチの下に身を隠す。



駅構内で隙間に身を隠す。



スロープの下に身を隠す。



コンクリート製のトンネルに避難する。

屋内にいる場合

小学校の教室



窓から離れる。



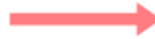
机の下で身を守る姿勢をとる。



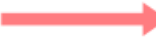
自宅



窓から離れる。



窓のない廊下
に避難し、身を守る
姿勢をとる。



オフィス



窓から離れた廊下に出て、身を守る姿勢をとる。または、机の下に身を隠す。



弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性もあります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動

②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。



国民保護ポータルサイト

武力攻撃やテロなどから身を守るために

事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/shiryou/hogo_manual.html



首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/



Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai



Jアラート（例）直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難して下さい。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難して下さい。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

近くの建物の中か
地下に避難。

（注）できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになれば、それ以外の建物でも構いません。

建物が
ない場合

物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。

屋内に
いる場合

窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。



●屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。
●屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。